

Gallery PARC
Art Competition 2017

Gallery PARC
Art Competition 2017

#01

近藤 洋平 *Kondo Yohei*

whereabouts whereabouts

2017年7月4日[火] - 7月16日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

Gallery PARC
Art Competition 2017

#02

松宮 恵子 *Matsumiya Keiko*

湖 / 畝を旅する ridge, rib, realize

2017年7月18日[火] - 7月30日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

Gallery PARC
Art Competition 2017

#03

井上 裕加里 *Inoue Yukari*

堆積する空気 ●●●●●●●●●●

2017年8月1日[火] - 8月13日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

Gallery PARC Art Competition 2017

2017年採択プランによる展覧会 *入選者3名(組)による3つの発表を2週ごと、連続開催

2017年7月4日 | 火 — 8月13日 | 日 11:00~19:00 月曜休廊・金曜日は20:00まで

実施概要

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2017年7月4日から8月13日にかけて、2014年から毎年取り組んでいるコンペティション「Gallery PARC Art Competition」の2017年採択プランによる展覧会を開催いたします。

本展は様々なクリエイション活動へのサポートの一環として、広く展覧会企画を公募し、審査により採択された3名(組)のプランを実施するコンペティション「Gallery PARC Art Competition 2017」に応募された31のプランから、平田剛志(美術批評)、勝冶真美(京都芸術センタープログラムディレクター)の2名の審査員を交えた厳正な審査を経て採択された近藤洋平、松宮恵子、井上裕加里の3組による展覧会を連続開催するものです。

会場など

料 金 無料

会 場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

ア ク セ ス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC (正木・武本・村田) 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマーブル]2F
【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com

過去募集結果・実施内容

2014年 応募総数44プラン

実施展覧会:薬師川千晴「絵画碑 Obelisk picture」、むらたちひろ「時を泳ぐ人」、松本絢子・山城優摩展、森川穰(企画)「A Sense of Mapping -私の世界の測り方-」

2015年 応募総数34プラン

実施展覧会:田中秀介「私はここにいて、あなたは何処かにいます。」、中尾美園「図譜」、明楽和記「白」

2016年 応募総数56プラン

実施展覧会:湯川洋康・中安恵一「豊穰史のための考察 2016」、寺脇扶美「紫水晶からの手紙」、嶋春香「MEET(MEAT)」

2017年採択・実施プラン

Gallery PARC
Art Competition 2017

#01

近藤 洋平 *Kondo Yohei*

whereabouts whereabouts

2017年7月4日[火] — 7月16日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

Gallery PARC
Art Competition 2017

#02

松宮 恵子 *Matsumiya Keiko*

湖 / 畝を旅する ridge, rib, realize

2017年7月18日[火] — 7月30日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

Gallery PARC
Art Competition 2017

#03

井上 裕加里 *Inoue Yukari*

堆積する空気 ●●●●●●●●

2017年8月1日[火] — 8月13日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

Gallery PARC Art Competition 2017

2017年採択プランによる展覧会 *入選者3名(組)による3つの発表を2週ごと、連続開催

2017年7月4日 | 火 — 8月13日 | 日 11:00~19:00 月曜休廊・金曜日は20:00まで

審査員講評(内容は2017年2月末時点のプランへのもので、実施展覧会においては一部内容に変更があります。)

■平田剛志(美術批評)

本公募は展覧会プランの公募審査であって、作品審査ではありません。今年も1点の作品として魅力的ものは多々ありました。しかし、展覧会プランとなると作品とプランが一致しない応募資料が見られました。

また、今回のコンペでは、絵画作品のプランを選ぶことができませんでした。これまで優れて豊穡な絵画の現在を目撃・発見する機会となってきた本コンペにおいて、絵画の不在は残念でなりません。私が見たいのは、絵画の「新しい」形式ではなく、絵画に描かれた主題の「新しさ」です。

本公募は、なにを「新たに」作るかではなく、なにを見せたいのかが問われているはずなのです。

今回の3者の入選プランは、アジアや認識・認知、「湖」など、主題は多様です。しかし、私たちがそれとなく抱いている世界やものの見方を問う、見せることに自覚的なプランでした。そして、展覧会を見たいという想像力を刺激するプランでもありました。ロバート・ヘンライは「強烈な関心から生まれない絵は、強烈な関心呼び起こすこともできない」と書きましたが、3者のプランには、「強烈な関心」があったゆえに、こちらの関心呼び起こしたと言えるでしょうか。展覧会がさらなる関心を生むことを期待しています。

近藤洋平「whereabouts」

近藤は、大学で建築を学び、建築的な視点から場所や空間の「境界」のずれを生み出す作品を制作しています。今展では、金属などの素材の特性を生かしたインスタレーションのプランでした。とはいえ、そのプランは、素材の特徴や物質性を生かして重力や視覚認識の気づきを促す空間を構築する「建築」といった方がいいのかもしれませんが。

また、タイトルに「通り雨」という気象学的な言葉を与えることにより、素材のもつ抽象的な特性を具体的な詩情あるイメージへと変容しました。それは、一夏の「通り雨」のように、空間の質を変えるだけでなく、私たちの心理にも影響する空間となることを楽しみにしています。

松宮恵子「湖／畝を旅する」

松宮は染織を専攻し、さまざまな織りや編みの技法によって作品を制作してきました。その軌跡は、染織の多様な素材・技法を、「畝を旅する」ように「自分の指で自在に操る」ことの物質的な魅力に溢れ、その現在地点を目撃したい誘惑に駆られました。ともすれば、専門的でわかりにくい技法や素材ですが、提出資料には作品に使用する素材の断片を添付するなど、具体的、丁寧に伝える姿勢も評価されました。

今プランでは「湖／畝を旅する」として、湖の昼と夜の風景を配置し、観者の内面の「湖」を揺るがす空間の創出を試みます。言うまでもなく、古来、染織作品にはさまざまな「湖」のパターン、「型」があります。この伝統に対して、松宮がどのような畝を旅して、「湖」にたどり着くのか、その旅の報告を楽しみにしています。

井上裕加里「想像のアジア(仮)」

井上はこれまで一貫して東アジアの近現代に潜在する歴史認識、文化観の差異や関係性、地域性をテーマに作品を制作してきました。今回のプランは、「蛍の光」や「仰げば尊し」などの近代音楽を取り上げ、東アジア各国における受容と地域性、愛国心を読み解く試みです。応募段階で「8月15日」を踏まえたプランから、政治的な側面に注目が集まるかもしれません。しかし、井上が提示するのは「真実」でも「正義」でもなく、国家や文化という目には見えない集団や共同体の受容や排除、境界だといえるでしょう。他者・他国を排除する動きが顕在化しているいま、「想像のアジア」を通じて私たちに「国家」「国民」、あるいは「他者」とは何か再考する機会となるでしょう。

勝冶真美(京都芸術センタープログラム・ディレクター) : 00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

寄せられた31の応募ファイルはどれもそれぞれに魅力があり、審査は長時間にわたるスリリングなものでした。結果選出した3名のプランは、提案が言葉や資料で丁寧に説明され、創作の動機と作品を展示するということへの動機がきちんとリンクされていたと思います。

“Exhibit(展示する)”は持っているもの(hibit-)を外に差し出す(ex-)、という意味です。自分の作品を誰に、どのように、差し出すのか、その思考が展覧会プラン公募には問われているのだと思います。

中には、自分の作品をうまく言葉にできていないような印象をうける応募もあり、もったいないと感じました。修辞や比喩が多用された結果、核心にたどり着かないままの文章が多いように思います。テキストは“作品”である必要はありません。他者と作品を共有する場である展示プランを考えるには、まずは作者が客観的な眼で作品を視ることが大切なのではないでしょうか。そして“資料”でみるプラン以上の衝動を私たちに与えてくれる、そんな展示が実現する3名には期待しています。

Gallery PARC
Art Competition 2017

#01

近藤 洋平 *Kondo Yohei*

whereabouts whereabouts

2017年7月4日[火] - 7月16日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

展覧会について

行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず。

よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまることなし。

世の中にある人とすみかと、またかくの如し。

鴨長明「方丈記」より

本展では、鉄や鏡といった日常で見かける素材を水のイメージに重ねた作品をギャラリーに意識的に配置していきます。その行為によって生まれる変化は、とても微かなものかもしれませんが。しかしその変化は、鴨長明が記すように私たちの社会に通じるものであるのではないのでしょうか。鑑賞者にとって「この世界の曖昧さや不安定さ」を再認識するきっかけを促すものになることを期待しています。

ステートメント

私たちの世界は、波打際が海と陸地の境界線を変化させるように、常にゆらいでいる。

そのゆらぎは、私たちに何をもたらすのか。

そのつかみ所のない境界を持つ意味を見つけていきたいと思う。

C.V

近藤洋平 Kondo Yohei

1984年、岐阜県生まれ

2009年、武蔵野美術大学大学院造形研究科デザイン専攻建築コース 修了

主な展覧会

2017 ミズマクおおがき2017 ~大垣の新進美術家たち~ (大垣市サイトピアセンター アートギャラリー/岐阜)

- 個展「月の海」(ホテルミクラス・大月ホテル和風館/静岡)

2016 個展「波打ち際」(静岡)

- 個展「melting point」(静岡)
- 建築系2 (ギャラリー小さい家/岐阜)
- 渚町5丁目4番地4F・5F・6F(大館ビル/静岡)

2015 in passage (nagisArt/静岡)

- 建築系 (ギャラリー小さい家/岐阜市/岐阜)
- 第14回KAJIMA彫刻コンクール(模型入選)

2014 混流温泉文化祭 (丸屋ビル/静岡)

- 月をめぐる九つの物語 (ギャラリー小さい家/岐阜)

2013 岐阜と宇宙民藝 (なうふ現代/岐阜)

- トーキョーワンダーウォール公募2013入選作品展 (東京都現代美術館/東京)
- 代官山インスタレーション2013 (東京)

2012 水と土の芸術祭2012(新潟)

- うつせみ (常懐荘/愛知)
- うたかた (アートラボあいち/愛知)

2011 第24回UBEビエンナーレ (現代日本彫刻展) (山口)

- おもしろき視座展 (菊川画廊/山口)

2010 松戸アートラインプロジェクト2010(千葉)



《通り雨》
2016年
「建築系2」(ギャラリー小さい家 / 岐阜県)会場風景
©近藤洋平



《波》
2016年
個展「melting point」(熱海市・静岡)会場風景
©近藤洋平

Gallery PARC
Art Competition 2017

#02

松宮 恵子 *Matsumiya Keiko*

湖／畝を旅する *ridge, rib, realize*

2017年7月18日[火] - 7月30日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

展覧会について

普段の生活の中で得た経験は、自分自身にしか知覚できない形で蓄積される。普段意識していなくとも、誰かと会話している時などにそれらがふと思い起こされ、結びつき、またあらたに蓄積される。繰り返されるこの日々の蓄積、つまり自身の感覚世界を、繊維素材と織り・編み技法を用いて造形化してきた。

今回は、その感覚世界に「湖」という仮の名を与えて、日々移り変わる「湖」の表情を追いかけ、大きく空間に構成する。言葉では他者と共有することができない感覚を、糸という素材を通して翻訳し、それぞれを空間に配置しひとつの世界を編む。織り、編み、「畝」を生むことで、あいまいな自己をとらえるための旅をする。

ステートメント

美しい景色を見たとき、誰かの話に聞き入ったとき、別の時間と繋がったような不思議な感覚になります。

「不思議な感覚」以外の言葉はないだろうか、糸を探してはイメージを積み上げます。

水を上から覗き込むような。
長い夢から目が覚めたような。
忘れていた何かを思い出すような。
頼りない感覚が物質となる喜び。

それが無駄ではないと信じて、今日も指先で畝を旅しています。

C.V

松宮 恵子 Matsumiya Keiko

1994年、京都府生まれ

2016年、京都市立芸術大学工芸科染織専攻卒業

2016年、京都市立芸術大学大学院工芸専攻染織分野入学

現在、同大学院在籍

主な展覧会

2017 Japan-China Textile Art Exhibition -ひろがる布

つながる糸-(東京藝術大学)

- 京都市立芸術大学作品展(京都市美術館)

2016 初個展「折折の景」(つくるビル gallerymake・京都)

- 染織専攻大学院生前期展(京都市立芸術大学小ギャラリー)

- 京都市立芸術大学作品展[同窓会賞受賞](京都市美術館)

2015 染織専攻三人展(京都市立芸術大学小ギャラリー)

- 銅駝美術工芸高校卒業生グループ展「美工進展」(堀川御池ギャラリー・京都)

- 京都市立芸術大学作品展(京都市美術館)

2014 京都市立芸術大学作品展(京都市美術館)



【本展DM使用イメージ】



《湖/思い出は横たわり》
2017年 ナイロン・スブラング サイズ可変(250×35×80cm)
撮影者:大西日和 ©松宮恵子

Gallery PARC
Art Competition 2017
#03

井上 裕加里 Inoue Yukari

堆積する空気

2017年8月1日[火] - 8月13日[日] 11:00 ~ 19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで



【本展DM使用イメージ】



《Auld Lang Syne》
2014 ビデオインスタレーション
© 井上裕加里



《Memory And Forgetting, And Oral Instruction》
2016 video (1'57")
京都府アーティスト・イン・レジデンス事業「京都:Re-Search」
© 井上裕加里

展覧会について

展示を行う8月は、6日にヒロシマの広島平和記念日、9日にナガサキの長崎原爆の日があり、15日は日中韓においてそれぞれ、終戦記念日・対日戦勝記念日・光復節という記念日がある月です。

そんなアジアが殺伐とした雰囲気となる時期に、実際に中国・韓国・広島を訪ね歩き、先の大戦の遺物や遺言を見つめる事で、前代の時代性や歴史観を見つめ、アジアの記憶を再構築したいと考えます。

また、今一度アジアの地域性や文化、互いの共通点と相違点を見つめる契機を作りたいと考えます。

ステートメント

「“答え”は目の前にあり、見えていないのは“問い”である。」

私は、現代社会の身近な問題を主題に作品を制作する事で、社会に潜在するその“問い”を探そうと試みている。

C.V

井上裕加里 Inoue Yukari

1991年、広島生まれ。

2012年、倉敷市立短期大学 服飾美術学科卒業

2014年、成安造形大学 芸術学部芸術学科美術領域現代アートコース卒業

主な展覧会

2017 フェルトシュテルケ・インターナショナル - 東アジア文化都市2017- (中国/韓国など)

2016 「パイロットプラント展 赤」(CAS・大阪)

- 「日韓交流展 韓日藝術通信」(ART SPACE SAGA・京都)

- 京都府アーティスト・イン・レジデンス事業「京都:Re-Search」(舞鶴)

2015 個展「井上裕加里展」(CAS・大阪)

- 個展「confidential information」(Kunst ARZT・京都)

- 個展「井上裕加里展」(+gallery・名古屋)

- 「timelake-時間の湖-」(新風館・京都)

2014 「成安造形大学卒業制作展」(京都市美術館)

- 「日韓交流展CARRY MORE」(韓国電力アートセンター・ギャラリー・韓国)

2013 個展「It's a small world」(Kunst ARZT・京都)

- 「日韓交流展dd me!」(海岸通りギャラリーCASO・大阪)

- 「ここはどこか、あるいは何か」(越山計画・札幌)